

図書館整備に向けた検討・協議について

1. 現在の検討状況と今後の進め方について

(1) 確認事項について

これまで近鉄グループが計画する建物に新図書館等を組み入れることについて基本計画の協議を進めてきており、次のステップである基本設計を実施するため、以下の新図書館等に関する確認事項について双方で合意した。

○確認事項(合意)

・目的

基本設計を実施するための協議を進めることを目的とし、これまでの協議の内容について確認する。

・新図書館等に係る建物計画

コンセプト：ICTに対応し、日常の居場所となる全世代を対象とした滞在型図書館

ICTを活用し電子書籍などが導入されたスマート図書館

単なる図書の貸し借りの場ではなく、読書などで本を楽しみ、調べものや生涯学習もできる、ゆとりある空間を持ち、また、新たな情報や人に出会い、交流できる図書館

様々なライフスタイルに対応したワークショップスペースなどを持つ交流施設

駐車場・駐輪場：本計画建物内には設置せず、計画地周辺駐車場等への隔地化を検討。ただし、思いやり駐車場については本計画建物内に設置する。台数は今後継続検討。

・基本設計の実施について

新図書館等にかかる基本設計は市が行う。また建物全体の基本設計は近鉄不動産が行い、その費用は近鉄不動産および市で負担する。負担額の算定方法については今後継続検討する。

・権利設定

土地(定期借地、存続期間70年間(予定))、建物(区分所有)

地代の設定方針は、工事に関する合意を図る時点までに確認する。

・目標スケジュール

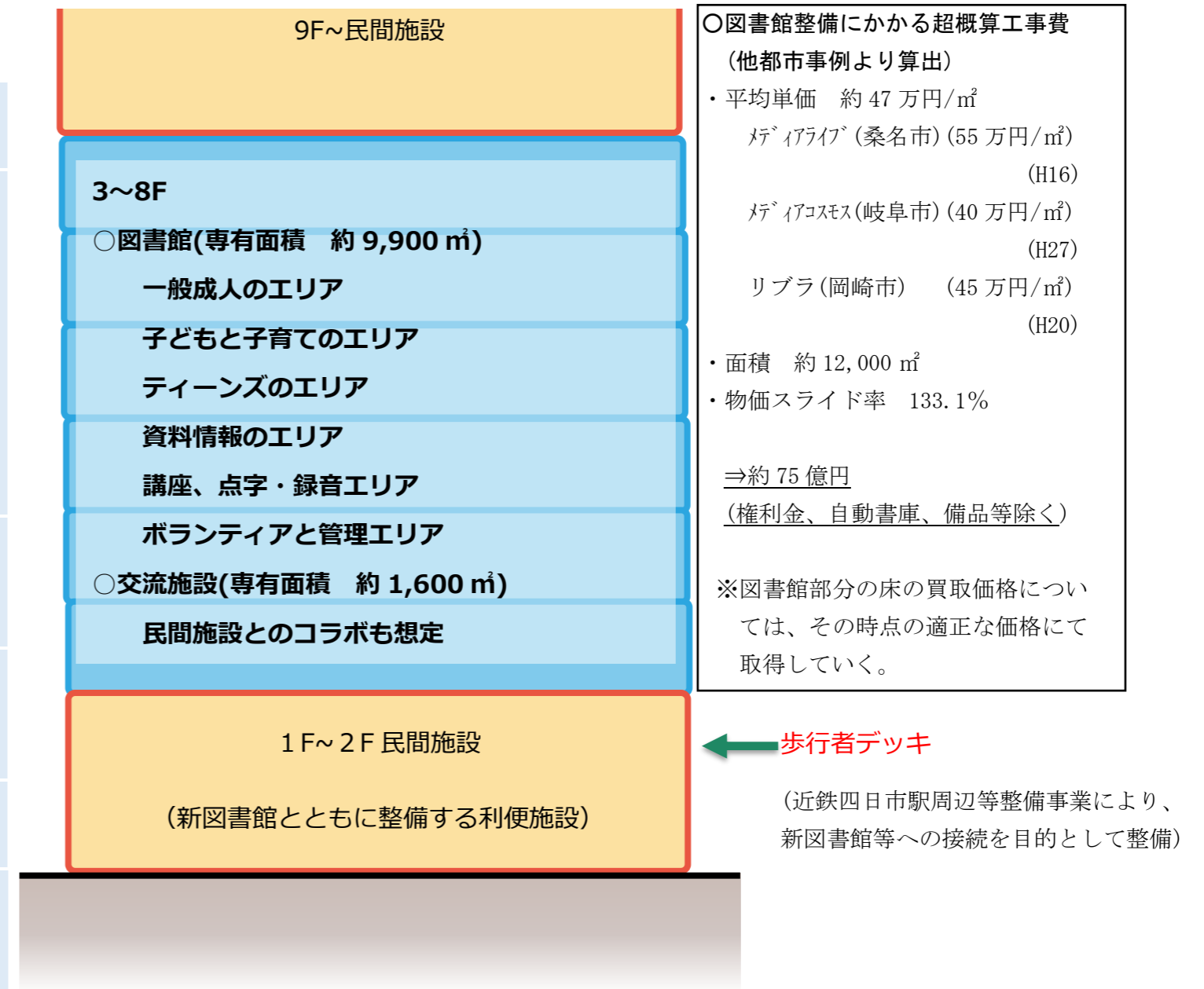
令和4年秋に基本設計に着手

・新図書館等床売買価格の考え方

新図書館等にかかわる整備費用を基に近鉄グループが算定する。その整備費用の算定方法については今後継続検討する。

(2) 新図書館の概要について(協議中)

現時点で市が想定するフロア構成については、以下のとおりとしており、現在近鉄グループと協議中である。この協議が整い次第、確認事項について書面で取り交わしたうえで新図書館に係る関係予算(基本設計本体分・内装分及び新図書館等の具体的な機能、運営やサービスのあり方等の検討費用)を補正予算として上程いたしたい。

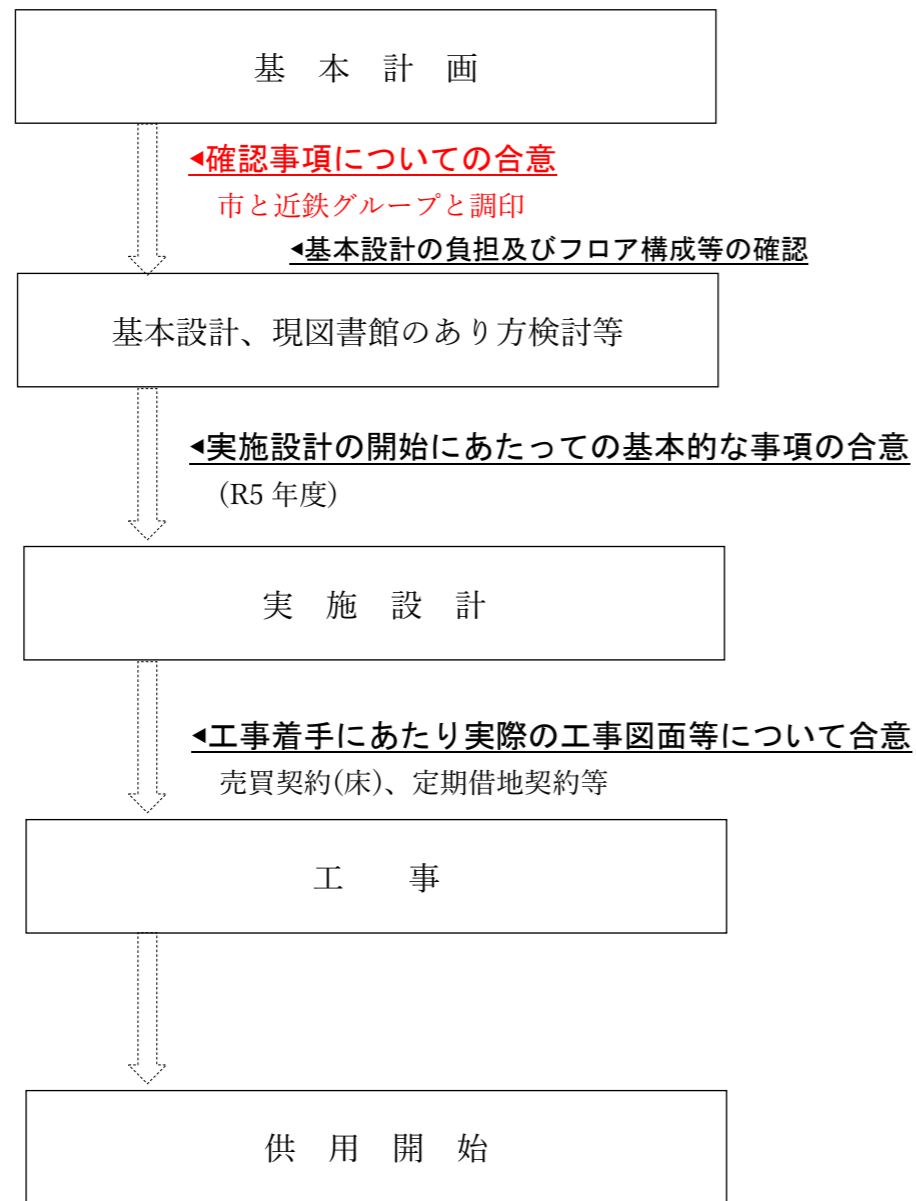


※上記イメージ図は、建物の外観や形状を表したものではありません。

(3) 今後の進め方について

市、近鉄グループの双方が確認事項の合意に至れば、設計業務や図書館の運営方針等、具体的な検討に進んでいくことから、関係部局で構成するプロジェクトチームの設置を行う。プロジェクトチームについては、政策推進部、教育委員会、都市整備部を想定しており、施設の管理・運営に関する協議・調整やそれを踏まえた内装面の基本設計を建物全体の設計とは別に実施する。併せて、自動車文庫等のあり方、現図書館の運営やサービスのあり方等の有効活用等についても検討を行う。

○想定される今後の進め方



※基本設計、実施設計、工事のそれぞれの段階で市と近鉄グループ双方で合意し、次のステップへ進めていく。

2. 図書館機能の検討について

スターアイランド跡地において、新図書館を含む複合的な中心市街地拠点施設を整備するため、昨年度から基本計画の策定を進めてきた。基本計画においては、市庁舎東側広場を整備場所と想定した「中心市街地拠点施設整備基本計画（平成30年1月）」において位置付けられた機能等について立地場所が変わったことから改めて整理した。

(1) 自動車文庫について

自動車文庫は、現在2台体制で市内9カ所を巡回し、図書館本館への来館が困難な市民に図書貸出サービスを実施している。自動車文庫に使用している車両は、下記に示すように大型であるため、車両動線や専用の駐車スペースも大きくなるとともに、駐車スペースのそばには図書の積み替えのための専用スペース（150㎡程度）も必要となってくることから、新図書館においては、その機能は確保せず、現在の図書館にて確保していく。

○自動車文庫について

- みなと号(右) 6.99m×2.15m×2.74m
- かもめ号(左) 7m ×2.2m ×2.72m
- ※最大積載 3,200冊/台
- ※北回り、南回りの2台体制



※現図書館の継続利用について

新図書館との役割分担や既存ストックの有効活用の観点から現図書館の継続利用を行う。

○現図書館に残す機能について

- ・閉架図書の保管 ⇒新図書館の閉架書庫スペースの削減
- ・車での来館需要の高い低年齢の子どもと保護者等を対象とする機能 ⇒新図書館との役割分担を整理した上で当該機能を残していく。
- ・自動車文庫の拠点 ⇒自動車文庫については利用者も多く、拠点としての機能を残していく。

※必要な面積を確保した上で不要な部分を減築するとともに、空調を含めた老朽化に対する施設のメンテナンスを行う。

(2) 駐車場について

①H30年基本計画の駐車場需要台数の見直し

新図書館等の駐車場需要として平成30年の基本計画では、休日のピーク対応で365台と想定していた。

今回、基本計画策定時とは異なり駅直近の公共交通の利便性が良い立地となることから、自動車分担率を65.7%から37.4%に見直し、ピーク時台数を216台とした。なお、自動車分担率については、本市と同じ中部圏に位置する一宮市の駅直近図書館を参考にした。

	一宮市尾張一宮駅前ビル	備考(四日市市)
場所	愛知県一宮市	
人口(R4.4.1)	382,349人	309,338人
最寄り駅 (乗降客数)	尾張一宮駅 JR 東海道本線 (54,138人,2019) 名鉄一宮駅 名鉄名古屋本線 (27,760人,2020)	近鉄四日市駅 名古屋線 (37,287人,2021) 湯の山線 (-) あすなろう四日市駅 八王子線 (5,958人,2021) 内部線 (-)
用途	図書館、自由通路 集会場、子育て支援センター 市民活動支援センター 商業、駐車場	
敷地面積	4339.67m ²	
延べ面積	21,406.98m ²	
階数	地上7階	
竣工年	2013	
駐車場	180台	
料金割引	1時間無料	
自動車での来館率 (アンケート)	37.4% (2020年)	

②駐車場需要を踏まえた対応

近鉄グループと協議した結果、建物内への駐車場整備については地下となり相当のコスト増となることから、隔地化することとし中心市街地内で駐車場を確保する。

【1】くすの木パーキングを新図書館等の駐車場として利用(150台程度)。

※くすの木パーキングの収容台数は509台、平均駐車台数の最大は約350台であることから、利用台数として150台程度を見込む。

【2】中心市街地内の既存駐車場で残りの台数(216-150=66台)を確保する。

既存駐車場の現況について

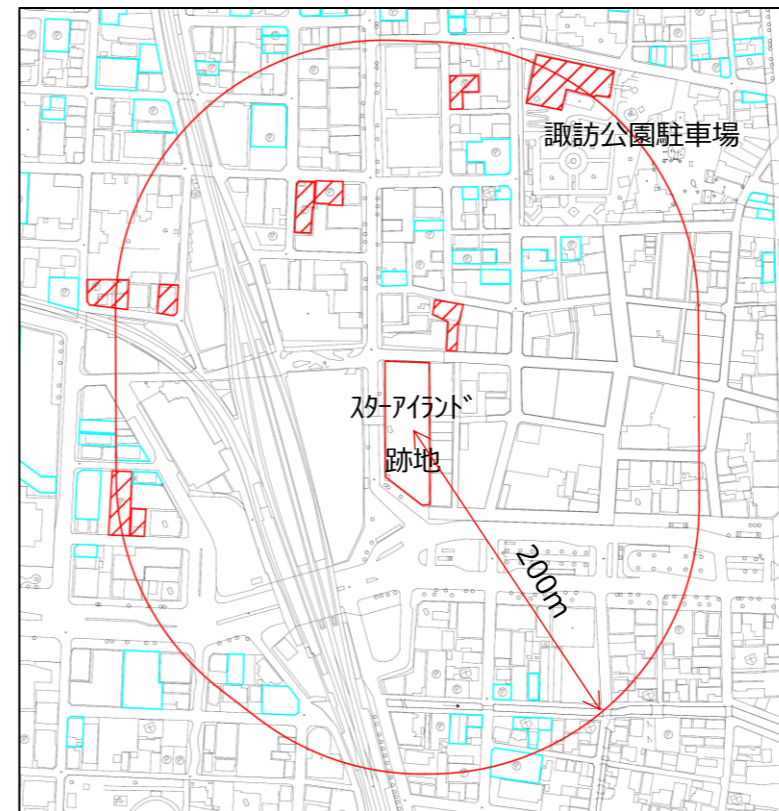
・概ね200m範囲内の駐車場 28箇所 564台

※施設併設駐車場(近鉄パーキング、タイムズキング観光近鉄四日市)、くすの木パーキング除く

・内、割引対応可能な駐車場(チケット、管理人方式) 22箇所 487台

・内、10台以上の規模かつ、稼働率が60%未満の駐車場 9箇所 303台

⇒4割が利用可能とすると 303台 × 0.4 = 121台の容量がある。



凡例

- 時間貸駐車場
(施設併設駐車場、くすの木P除く)
- 割引対応が可能、
10台以上の規模、稼働率60%未満

※既存駐車場としては十分な容量を確保しているが、民間駐車場のため全てを継続的に利用できる確証はない。一方で諏訪公園駐車場は都市計画決定された継続性のある駐車場であるため、諏訪公園リニューアルに併せて老朽化した駐車場の改修を行うことで新図書館等のための駐車場としての利用を促進する。あわせて新図書館等への円滑な動線確保のために入り口を変更するなどの改修も行う。なお、当該駐車場を管理する諏訪西商店街振興組合と十分に協議を図っていく。